

歴史マンガ

西南戦争

—ふたりの隼人—

西郷隆盛

大久保利通

源吉

達之助

激戦地 玉東・植木
「田原坂・横平山・吉次峠の戦い」

「越すに越されぬ田原坂」

現在の玉名郡玉東町・熊本市北区植木町に所在する

「田原坂・横平山・吉次峠」は、

明治10（1877）年、西南戦争において激しい戦いの舞台になった場所である。

この戦いは、日本の近代史上最大にして最後の内戦であり

その後、日本が本格的な近代化への道へと進む

きっかけとなった戦いでもある。

今もその激しい戦いの痕跡が残る

この地域でどのような戦いがあり

人々は、またどのようにして生きたのか

・・・・・・・・・・・・・・・・

物語は薩摩の小さな集落から始まる。

歴史マンガ 西南戦争 — ふたりの隼人 —

プロローグ 「出会い」 — 明治・近代の夜明け —

第一章 西郷の帰郷 — 西南戦争前夜 —

第二章 開戦 — 熊本城の攻防 —

第三章 激戦 — 田原坂・吉次峠・横平山の戦い —

エピローグ 「別れと旅立ち」 — 近代国家へと向かう日本 —

登場人物

「歴史マンガ 西南戦争 - ふたりの隼人 -」は、史実を題材に
架空の登場人物である「達之助」と「源吉」というふたりの※薩摩隼人が活躍する物語です。

達之助

薩摩藩出身士族
西郷軍として
西南戦争に参加。



源吉

薩摩藩出身士族
政府軍として
西南戦争に参加。



政府軍

谷干城



士佐藩出身の士族。西郷らと共に倒幕運動を行いました。西南戦争では熊本鎮台の司令長官として活躍しました。

大久保利通



薩摩藩出身の政治家。幕末は西郷と共に倒幕運動を行い、明治政府で活躍。西南戦争後、政府に不満を持つ士族に暗殺されました。

佐野常民



佐賀藩出身の士族。ヨーロッパで学んだ国際赤十字の知識を元に日本赤十字社の前身となる博愛社を設立しました。

野津道貫



薩摩藩出身の士族。兄・鎮雄と共に西南戦争では政府軍の幹部として活躍しました。

西郷軍

桐野利秋



薩摩藩出身の士族。武芸に優れていて「人斬り半次郎」の異名を持っています。

西郷隆盛



薩摩藩出身の士族。明治維新の立役者として活躍しました。人情が厚く、たくさんの人々から慕われていました。

八世 鳩野宗巴



肥後藩の医師を務めた。西南戦争では敵味方や身分などの差別を一切しない博愛精神のもと治療を行っていました。

櫻田惣士郎



肥後藩(玉東町)出身の士族。教育者。和歌を読むことが得意。西南戦争で西郷軍に加わったため裁判の後、処刑されました。

プロローグ

『出会い』

明治・近代の夜明け

明治元年

ここは鹿児島とある集落……



それにしても

これから

薩摩は
どうなるんじやろおか
……



そうじゃのお……

新しい時代に
なつたのは確か
じゃが……

でも

オイたち侍は
これから
どう生きるか……

難しいことを
いうなあ

「近代国家へと向かう日本」

1853(嘉永6年)

ペリーが浦賀に来航

1854(安政元年)

日米和親条約が締結

1858(安政5年)

日米修好通商条約が締結

1860(万延元年)

桜田門外の変

1862(文久2年)

生麦事件

1863(文久3年)

薩英戦争が勃発

1866(慶応2年)

薩長同盟が成立

1867(慶応3年)

大政奉還

1868(明治元年)

明治維新・明治政府樹立

「じゃーどん」



オイたちには
西郷さんがおる

西郷さんが
江戸におる

そうじゃ
そうじゃ



薩摩は
安泰じゃー

わははは

そうじゃ
そうじゃ

お——い





第一章

『西郷の帰郷』

―西南戦争前夜―

明治新政府は
中央集権国家体制を
築きあげる中
次々と新しい政策を
おし進めていた。

明治6(1873)年―
朝鮮に対する
特使派遣をめぐる
議論が加熱していた。



岩倉具視を代表とする
使節団が海外を視察中
当時の留守政府では
西郷が特使となることに
決まっていた。

しかし、帰国した
大久保利通らは
内政の充実と国力増強を
優先すべきとして
使節派遣に反対。



結局、大久保らの
意見が通り
特使派遣は
見送りとなり
西郷は
この議論に敗れ
辞表を提出した。

これが
明治6年の
政変である。

※1 国の政治の権力がすべて中央政府に集中すること

※2 当時、鎖国を続けていた朝鮮に対し派兵もしくは使節をもって開国を進めようとする議論「征(遣)韓論争」。

やはり檣島は
ええのお

明治6年
11月10日
西郷は故郷
鹿児島へ戻ってきた。

そして、
鹿児島士族のために
私学校を作り、
その教育に
力をそそいだ。

その中に
達の助もいた。

西郷を尊敬し
鹿児島
そして、日本の将来を
考える若者へと
成長をしていた。

※私学校・・・西郷が桐野利秋、篠原国幹、大山綱良などと共に設立した士族青少年のための学校。
銃隊学校、砲隊学校、幼年学校から成り、軍事のほか漢学や外国語の授業もあった。



国のことは
大久保に
任せよう

しかし、当の西郷は
百姓の仕事に精を出し
政治からは身を引いた
生活を送っていた。

一方で…
明治政府は次々と
武士の特権を奪う政策を
うちだし、次第に士族の不満が
噴出するようになった。

大変
じゃあ!!

そのような中、独立国のような
鹿児島を警戒した明治政府が
武器倉庫から密かに兵器弾薬を
大阪に移送しようとしたことに
私学校党が激怒。

そして…
政府の陸軍火薬庫を
襲撃する事件が起きる。



※1 武士の特権を奪う政策とは・・・

《廃刀令》明治9(1876)年に出された帯刀禁止令。士族の特権廃止の制度の一つ。
《秩禄処分》明治9(1876)年に明治政府が行った士族の給与を全廃する政策。

※2 明治政府に不満を抱いた士族が起こした反乱とは・・・

明治7(1874)年 佐賀の乱
明治9(1876)年 神風連の変、秋月の乱、秋の乱

私学校党による暴動は
大きくなり
翌日以降も次々と政府軍の
火薬庫を襲撃。

今こそ政府を
叩くべきじゃ！

政府は
西郷さんを
殺そうと
します！

西郷さん！

ここまで
来てしまったら
もう治るまい



わたしの身体は
君たちにあずける

ド
ン

とうとう
西郷は私学校党を
率いて鹿児島を
立つことを決断する。

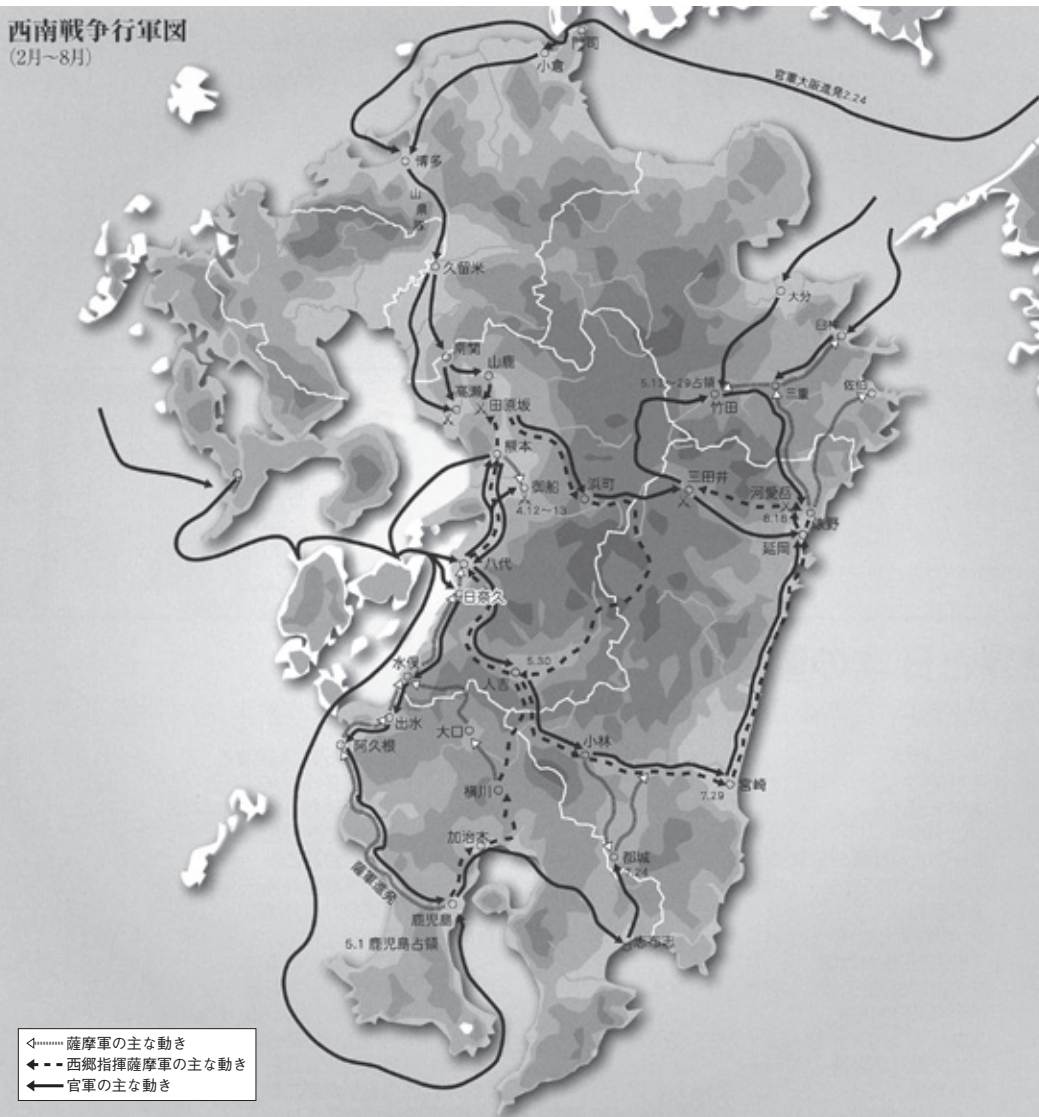
おお、
おお、



そして2月14日
南国の鹿児島では
めずらしい雪が
舞い散る中...

西南戦争激戦の軌跡

西南戦争行軍図
(2月～8月)



急速な近代化政策をおし進める藩閥官僚中心の新政府に対して、日本各地で旧士族の不満が高まり、反乱が発生。明治政府は士族の軍事集団である、私学校の動きを警戒し、鹿児島にあった弾薬製造所を大阪へ移転しようとしています。それに先立ち密かに兵器弾薬を大阪に移送しようとしたことに、私学校生徒らが激怒。政府の陸軍火薬庫を襲い弾薬約6万発を奪う事件が発生しました。また、政府は、私学校の動向を探る密偵を派遣しており、そこに西郷隆盛暗殺計画の目論見があるとして、これを政府の非行ととらえ、「政府の尋問の為」挙兵することが決定しました。当初、西郷隆盛は、挙兵に対して沈黙を守っていましたが、私学校党におされてついには「自らの命をあずける」と、決意したと伝えられています。

西南戦争ミニコラム①
**武器倉庫
襲撃事件**

西郷隆盛は1万3千の
士族を率いて
鹿児島を出発。



そして…

おおお

おおお

その中には
達之助の姿もあった。



西郷軍の出兵をうけ
熊本鎮台は熊本の城下を
焼き払った。

そして、2月19日
熊本城で
火災が発生。

第二章

火災の原因は
わかっていないが
熊本鎮台は
食料等軍備を失った……

『開戦』

—熊本城の攻防—

政府軍

熊本鎮台司令長官
谷千城

城を出ての戦では
分が悪い

籠城作戦をとる

同日、「鹿児島賊徒征伐」の
勅令が下り、政府軍は
西郷軍を反乱軍として
開戦布告。
ここに7ヵ月にわたる
西南戦争の火蓋が
切って落とされた。

※1 熊本鎮台・・・政府の軍隊の一つ。

※2 籠城作戦・・・城などの中にたてこもって敵を防ぐこと。

※3 勅令・・・天皇が発する命令のこと。

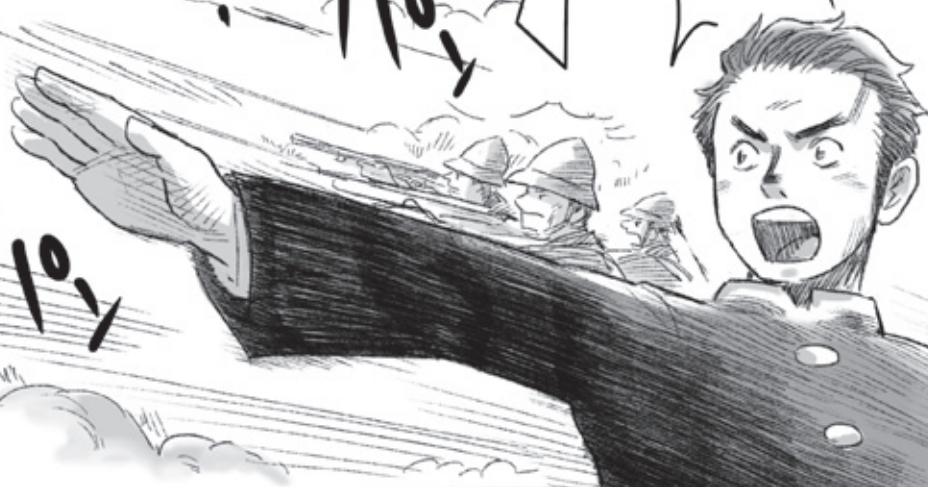
2月22日
西郷軍は熊本城に対する
攻撃を開始した。

薩軍 四番大隊長 桐野利秋

西郷軍

行けえ
進めえ——

ドン
おお!
110、



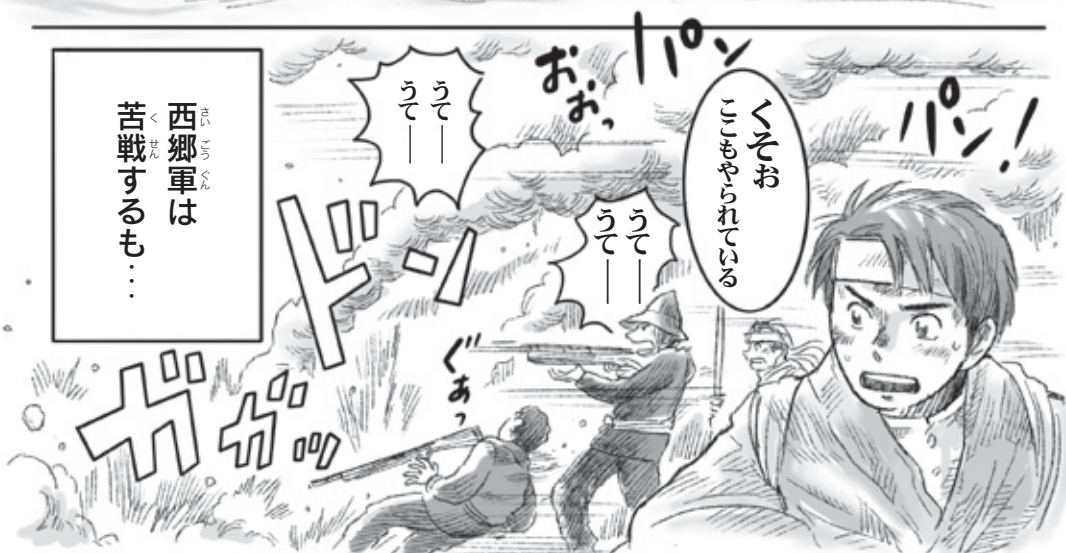
攻めろ——
ひるむな——

これだけの兵力で
攻めているのに……
熊本城という城は
なんと固い城じゃ……



必死で持ちこたえる
熊本鎮台を救うため、
政府軍は全国から
兵士をかき集めた。

西郷軍は
苦戦するも…



谷 干城

このまま
耐えきれば
必ず勝機は
来る! 耐えるぞ!

熊本城の籠城作戦はその後
54日間にもおよび
3千400人が耐え抜いた。
加藤清正が造った熊本城は
築城から270年を経て
その力を発揮したのである。

一方、熊本城を
落とせぬままの
西郷軍は、

桐野
利秋

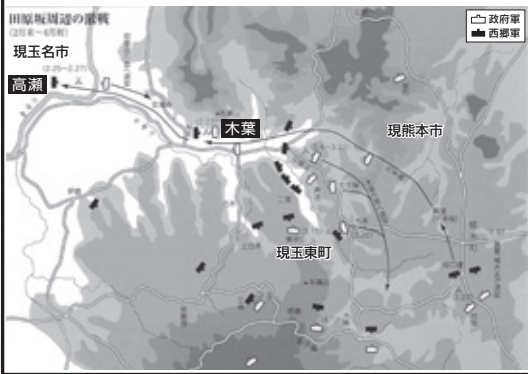
熊本城は
包囲にとどめ
南下してくる
政府軍を
たたくため
部隊を城北へと
進める！

城北（玉東・植木付近）へと
戦いの舞台を
移すことになる。

おお！



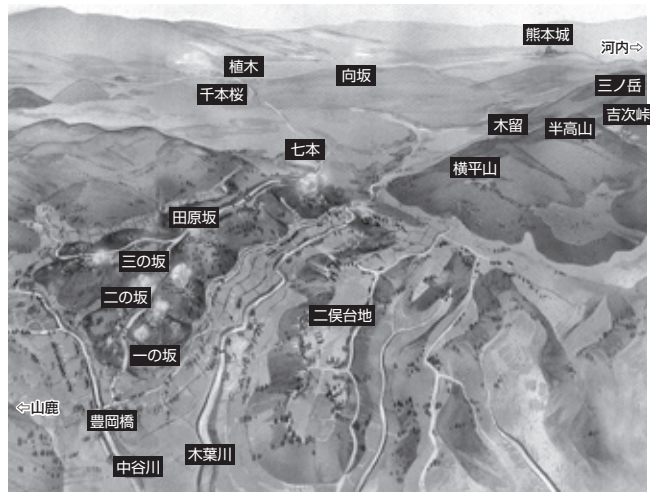
2月23日【木葉の戦い】
熊本城から増強された
西郷軍の激しい
攻撃により、
政府軍は撤退。
2月25日【高瀬の戦い】
菊池川をはさんだ攻防戦。
本隊が合流し
勢いを取り戻した政府軍が
優勢に戦いを進めた。
この戦いにより
西郷隆盛の弟・小兵衛が
戦死する。



第三章

『田原坂・吉次峠・横平山の戦い』

高瀬の戦いに敗れた西郷軍は、政府軍を迎え撃つため田原坂を中心に西は河内、東は山鹿に1万2千人の兵力を送り約50キロメートルに及ぶ防衛陣地を築いた。



※ 西郷に味方する兵士が九州各地から集まり「党薩諸隊」と呼ばれた。

吉次峠

3月3日

金峰山
さん

半高山

吉次峠

何としても
吉次峠を
死守する！

薩軍二番大隊長
篠原 国幹

吉次峠は西郷軍および
地元で地理に詳しい
熊本隊で守られることになった。

熊本隊隊長

池部 吉十郎

現・玉名市出身

熊本隊参謀

櫻田 惣四郎

現・玉東町出身

熊本隊 番小隊長 佐々友房

山鹿方面

吉次の険は
城よりも険なり！

行くぞ！

これ以上
先へは
行かせぬ！

熊本協同隊参謀

宮崎 八郎

そのすさまじい
戦場で

達之助もまた
必死に戦っていた。

田原坂方面

次々と死人がでる
戦場の中で
恐れや死に対する
感覚は
なくなっていた。

政府軍は1カ月に
数十万発という
弾薬を消費。

二俣台地からの砲撃

って——っ



西郷軍は日に日に
追い詰められていった。

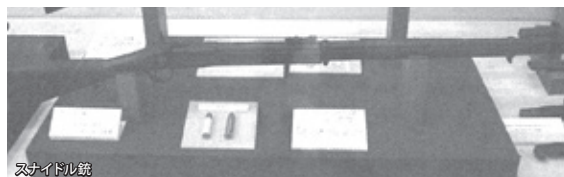


四斤山砲(レプリカ)

二俣台地の瓜生田、古閑周辺には、政府軍の砲陣地が築かれました。近年の発掘調査ではその痕跡が確認されています。大砲は分解して運搬可能な四斤山砲が主にしようされていました。



三俣瓜生田砲台跡発掘調査の様子



スナイドル銃

▲ 使用されていた銃は最新式のスナイドル銃やスベンサー銃などの元込め銃の他、旧式のエンフィールド銃など先込め式の銃も使用されました。

小銃の弾は、人体に大きなダメージを与える鉛という金属が使用されました。



西南戦争ミニコラム

②

二俣台地からの砲撃

田原坂第一次総攻撃の戦いは激しく、弾薬の消費は予想を大きく上回り、一日数十万発も使用されたと言われています。

第二次総攻撃の田原坂本道正面攻撃も効果があがらず、第三次総攻撃(三月七日)において、政府軍は、田原坂正面攻撃に加え、田原坂の西側にある玉東町二俣台地を占領し、ここに大砲陣地(砲台)を築き、側面からの攻撃を開始します。

砲撃は朝から日暮れまで続き、田原坂の西郷軍に打撃をあてました。

戦況は両軍
一進一退であつたが……
西郷軍の斬り込み隊に
対抗すべく
投入されたのが

横平山

警視拔刀隊で
あつた。

※1 だあいず はんし
元会津藩士を中心に
戊辰戦争の恨みを
晴らしてやろうという
強い思いが
士気になつていた。

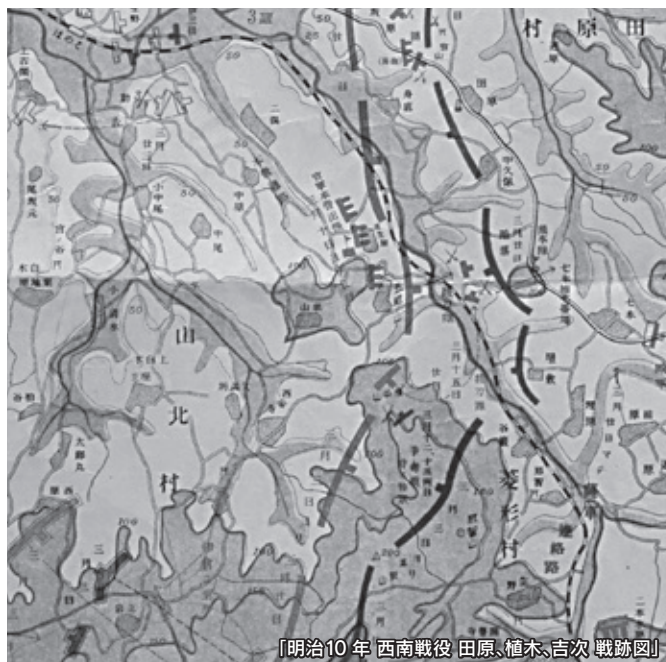
おおっ

戊辰の恨み
晴らす時
じゃあー

拔刀隊の活躍によつて
3月15日、横平山は
政府軍が占領。

※1 会津藩……現在の福島県

※2 戊辰戦争……慶応4(1868)年1月から翌年5月にかけて、新政府軍と旧幕府派の間で行われた内戦。



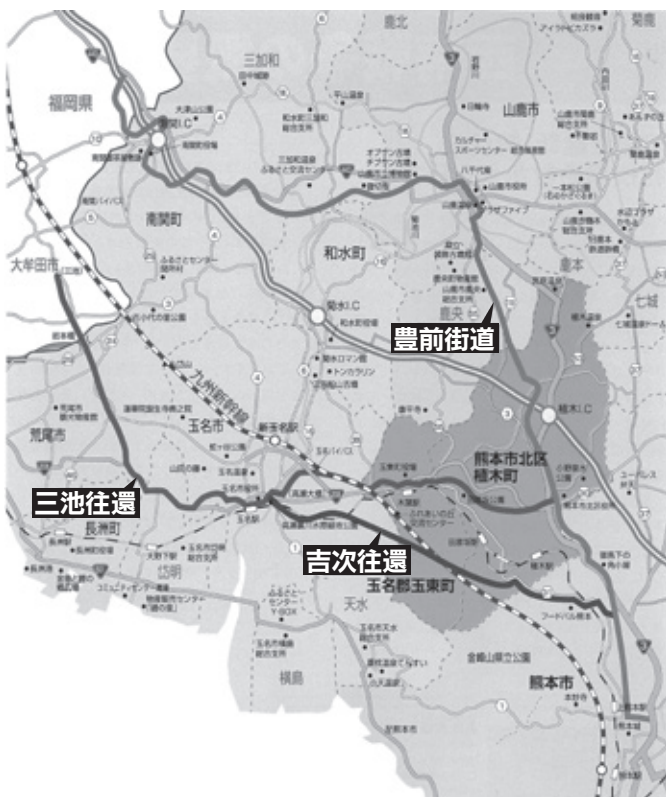
「明治10年 西南戦役 田原、植木、吉次 戦跡図」

横平山の戦い

両軍が横平山の重要性に気づき、激しい争奪戦が始まったのが3月9日頃で、政府軍が一時占領しますが、3月15日に西郷軍が奪取します。

政府軍は主力を横平山に向け、中腹にあった壘を奪うことに成功しました。しかし、頂上まであとわずかな地点で激しい銃弾を浴び、多くの死傷者を出しました。そこに、駆けつけた「警視抜刀隊」50人が突撃し、頂上の西郷軍に斬り込みました。同時に各隊の兵士たちも突入し、西郷軍は大混乱に陥り、多数の死者を出しながら全員が敗走します。

警視抜刀隊が突入し西郷軍の敗走までは、わずか5分だったと伝えられています。この戦いで西郷軍兵士、政府軍抜刀隊もほとんどが死傷し、その数200人以上だったといわれます。横平山争奪戦は西南戦争の三大激戦の一つにあげられています。



加藤清正が造った道

《豊前街道》

熊本を拠点として北上し、植木、鹿央、山鹿、和泉から南関を経て豊前・小倉に至る道のことです。参勤交代道として栄え、大名行列の休憩処が設けられるなど、道沿いの町は賑わいを見せていました。

《三池往還》

植木で分岐しているもう一つの豊前街道の別称です。玉東町木葉、玉名市高瀬岩本橋（荒尾市）、大牟田三池、江浦から勢高（瀬高）へ繋がるルートです。

《吉次往還》

熊本城下から玉名市瀬高を結び、往還のほぼ中央には、吉次峠があります。熊本への近道として活用された主要道でした。吉次峠は昔、金売吉次という人物がここで強盗に殺害されたという由来からその名がついたとされています。加藤清正が横島干拓のときにこの道を通り、ぬかるみに石畳を敷いて道を整備したと伝えられています。

政府軍陣営

政府軍は援軍を
迎え、攻勢を
強めていった。



源吉

しばしの休息…



正直
薩摩の人間と

戦うのは嫌じゃ
できれば直接剣を
交えずに終わらせた

ありがとうございます
ございます

源吉の思いとは逆に
戦況はますます
激しさを増して
いくことになる。



うう…
あの中には
兄上が
いるかも
しれぬ

この戦いは親子や
兄弟同士が
敵味方に分かれて戦う
悲しい戦いでもあった。

出来れば
父上とは剣を
交わしたく
ない…

激戦地となった
現玉東町では
住民が
多大な被害を受けた。



しかし、政府軍、西郷軍に
関係なく負傷した
兵士を看護し、
倉などにかくまうことも
あったといわれる。

こんなもんしか
ないけど
食べなせ

かたじけない



戦場には
国内では初の
従軍記者たちもいた。
そりやもう
ひどかったです
彼らは現地で
取材を続け
情報を伝えようと
奮闘した。

西南戦争ミニコラム⑤ 日本初の従軍記者

西南戦争では、新聞記者が政府軍に同行し戦場の様子を伝えていきます。これが従軍記者のはりりとも言われています。第29代内閣総理大臣・犬養毅も慶應義塾在学中に「郵便報知新聞」の記者として西南戦争取材しています。



元肥後藩医

八世 鳩野 宗巴

悲惨な戦場の様子を、知った人の中には、この現実をどうにかしたいと行動を起こす人もいた――

政府軍側――

元老院議員 佐野 常民

傷ついた者に敵も味方もない！



西郷軍側――

政府軍でも傷ついた者は治療をする

近代ヒューマニズムがここに誕生した。



※ ヒューマニズム・・・人道主義、博愛主義

西南戦争ミニコラム④

日本赤十字社の前身
博愛社の設立

元老院議員 佐野常民らにより、「敵味方の区別なく救護する」という赤十字の思想のもと、博愛社が創設されました。救護に当たった人は120人、救護を受けた人は明らかにしているだけでも、1千429人に及びます。
明治19年（1888）日本もジュネーブ条約に加盟し、翌年、博愛社から日本赤十字社と名前を改め、佐野常民が初代社長に就任しました。

《正念寺》

木葉の政府軍大綱帯所の一つ。山門には当時のまま生々しい銃弾跡が残っています。



《徳成寺》

木葉の政府軍大綱帯所の一つと思われる。本堂は当時のままの姿です。



3月20日午前6時
田原坂総攻撃

政府軍第二旅団参謀長
野津道貫

いよいよ
田原坂での
戦も大詰めだ
準備をおこたるなよ

薩摩藩出身の野津道貫は
兄・鎮雄と共に政府軍として
参戦し、大きな戦功をあげるも
同じ薩摩士族同士での戦いは
辛いものだった。

「田原坂では刀帯で
弾が止まって命拾いした」
というエピソードが残っている。

田原坂が
陥落しました！

政府軍は、
占領した横平山など
三方から兵を進め、
不意をつかれた西郷軍は
総崩れとなり、
田原坂の西郷軍は
退却した。



4月1日

がうてんあ

地獄峠と呼ばれた吉次峠では
両軍お互いの顔が
見えるほどの距離で
撃ち合いが行われた。

いよいよ
この周辺での
戦いも終盤戦を
迎える頃

大丈夫か！
しつかりしろお

悲しい運命の再会を
果たそうとしている
ふたりがいた。
達之助と源吉である。

いやあ
あああ！

ひるむなああ

先に
行ってくれ…





ガッ

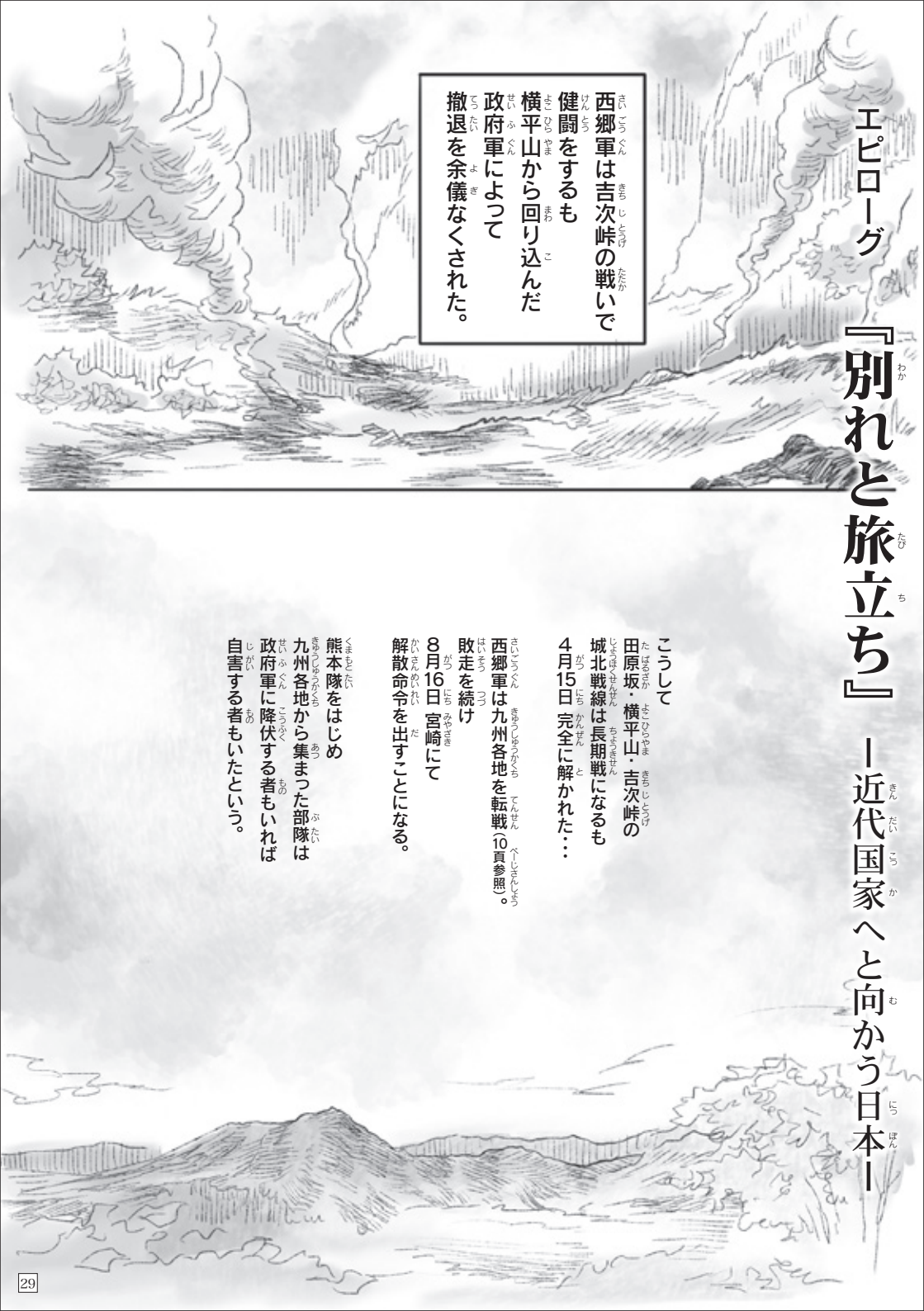
なぜ
お前^{まえ}なのだ!
こんなところで!

達^{ちの}之^{すけ}助!
源吉^{げんきち}ッ!

ゴォォォン

いったん
さがるぞお

ええ
退^ひけ



エピソード

『別れと旅立ち』

―近代国家へと向かう日本―

西郷軍は吉次峠の戦いで
健闘をするも
横平山から回り込んだ
政府軍によって
撤退を余儀なくされた。

こうして

田原坂・横平山・吉次峠の

城北戦線は長期戦になるも

4月15日に完全に解かれた：

西郷軍は九州各地を転戦(10頁参照)。

敗走を続け

8月16日宮崎にて

解散命令を出すことになる。

熊本隊をはじめ

九州各地から集まった部隊は

政府軍に降伏する者もいれば

自害する者もいたという。

西郷から幹部は政府軍と戦い続けながら
9月1日、鹿児島へ到着。
鹿児島県北部にある城山にたてこもった。



9月24日、政府軍の完全な包囲のもと
西郷は自害(享年51)。
ここに西南戦争は終結する。
西郷軍は5万人、
政府軍は6万人が戦争に加わり、
両軍合わせて1万4千人が亡くなった。

西南戦争を最後に
士族の反乱は終息した。
その後、日本政府は本格的な近代化を
進めていくことになる。



それから
数年後……

ふたりの隼人は……

達之助は
教育者を目指して
勉強の日々

まだまだ

本格的に近代化へと
進みだした
明治の時代を
生きる若者として
新しい道へと
進みだしていた。

勉強不足じゃ

源吉は明治政府のため
こちらで勉強の日々であった。

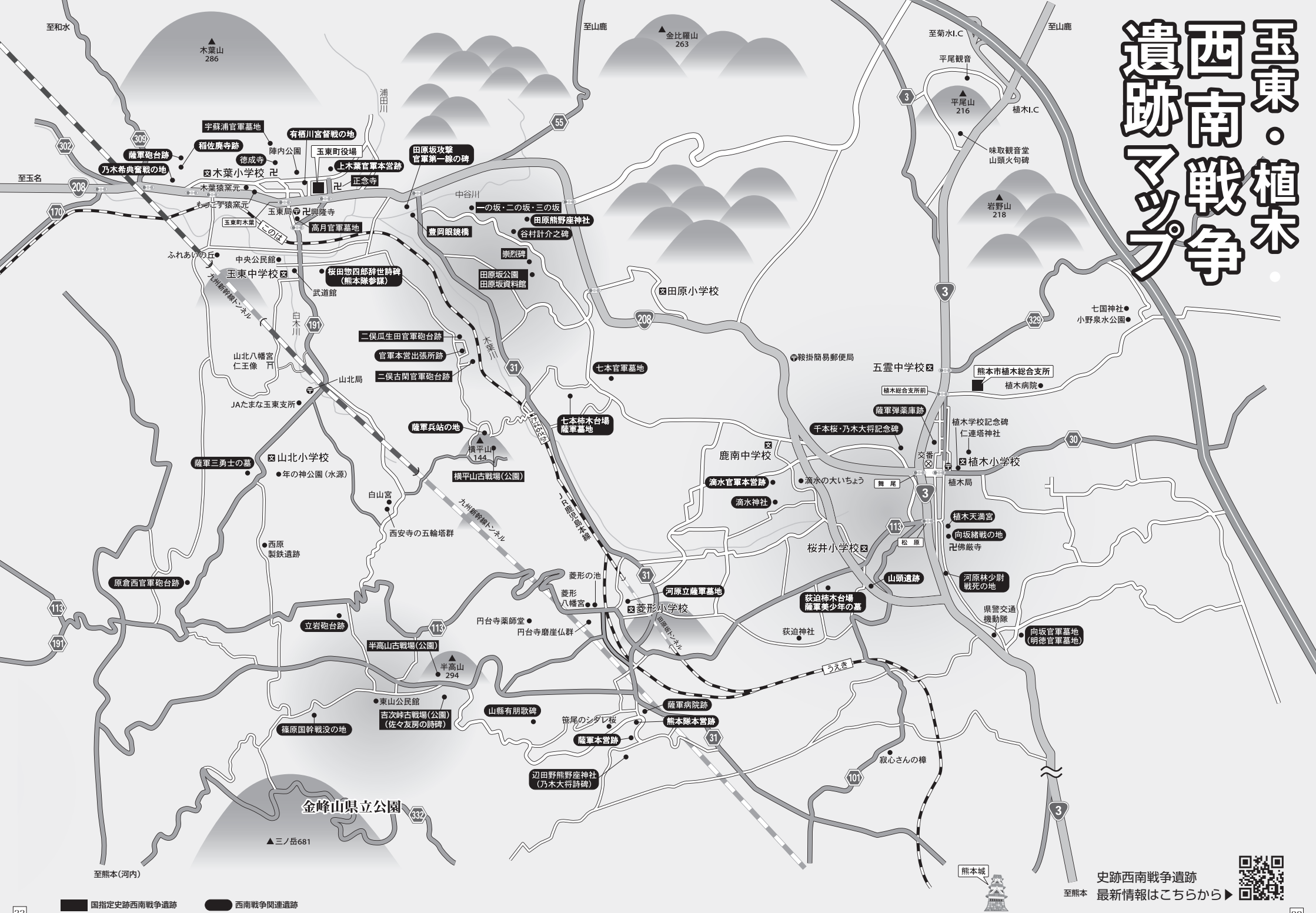
志なかばで
たおれた人たちのためにも生き抜き

ヤあ
行こう!

平和で豊かな日本を創る
決意を新たにすのだった。

終

玉東・植木 西南戦争 遺跡マップ



史跡西南戦争遺跡
最新情報はここから▶





歴史マンガ 西南戦争 一ふたりの隼人ー

企画・発行元／熊本県玉東町教育委員会
協力／熊本市文化振興課、高橋信武
発行年度／平成30年度(2019年2月)
漫画・作／むらいけんたろう
制作・編集／総合企画株式会社

本書は熊本県「地域づくり夢チャレンジ推進補助金」により制作されました。

※本書の漫画、記事などの無断転載は固くお断りします。